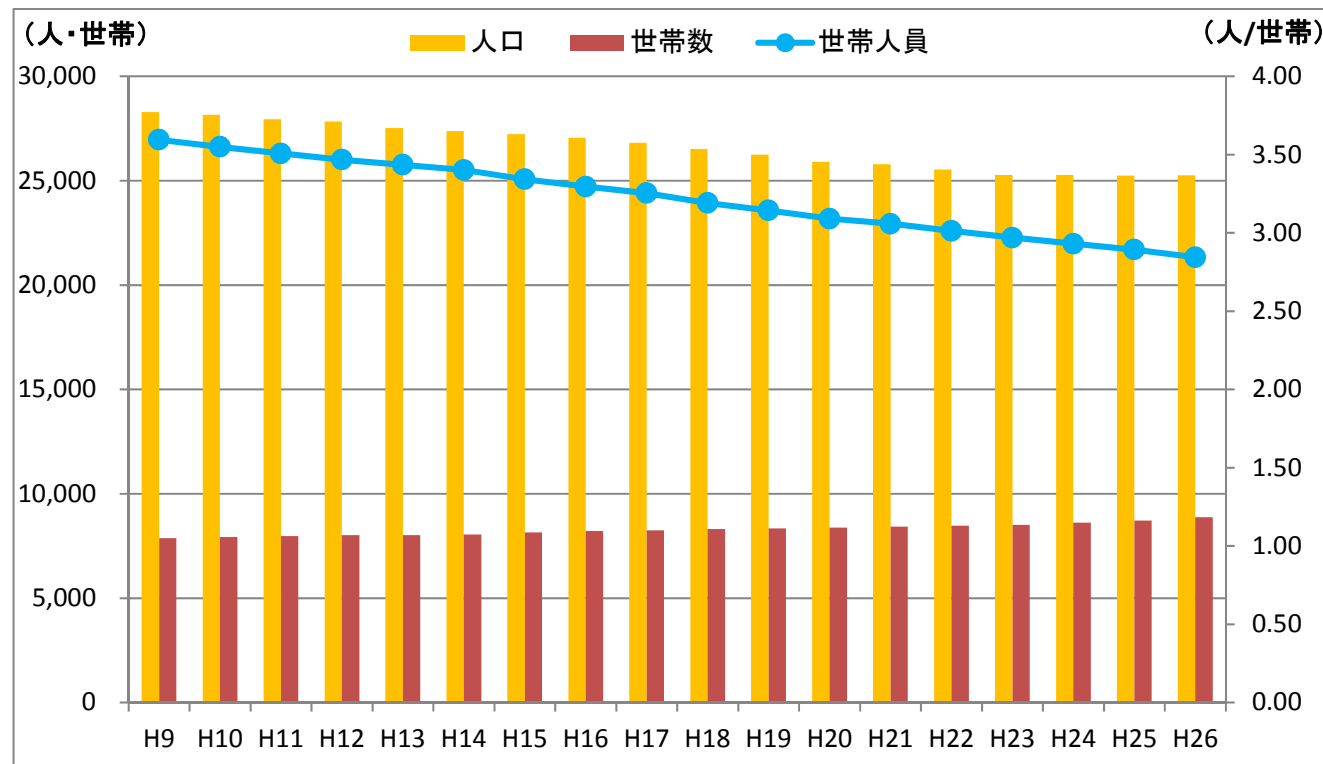


(1) 町の人口動向

◆ 人口・世帯数・世帯人数の推移

- ・ 美里町の人口は減少傾向であるが、世帯数は増加傾向である。
- ・ 1世帯当たりの人員の減少しており（平成23年には3.0人/世帯を下回る）、核家族化が進展している。



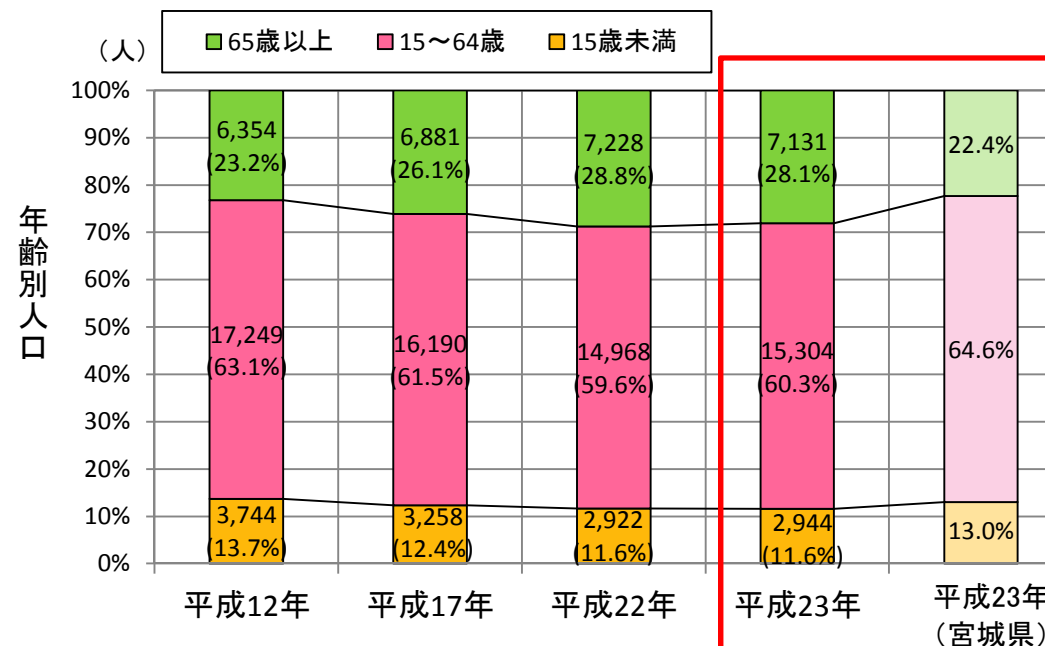
資料:「住民基本台帳人口及び世帯数(宮城県ホームページ)」より作成

▲美里町の人口・世帯数・世帯人数の推移

(1) 町の人口動向

◆ 美里町の年齢別人口推移

- ・宮城県（22.4%）と比べて、65歳以上の人口が約7,000人（28.1%）と多くなっている。
- ・15歳未満の人口は約3,000人（11.6%）と半数にも満たず、宮城県（13.0%）と比べて少子高齢化が進展している。



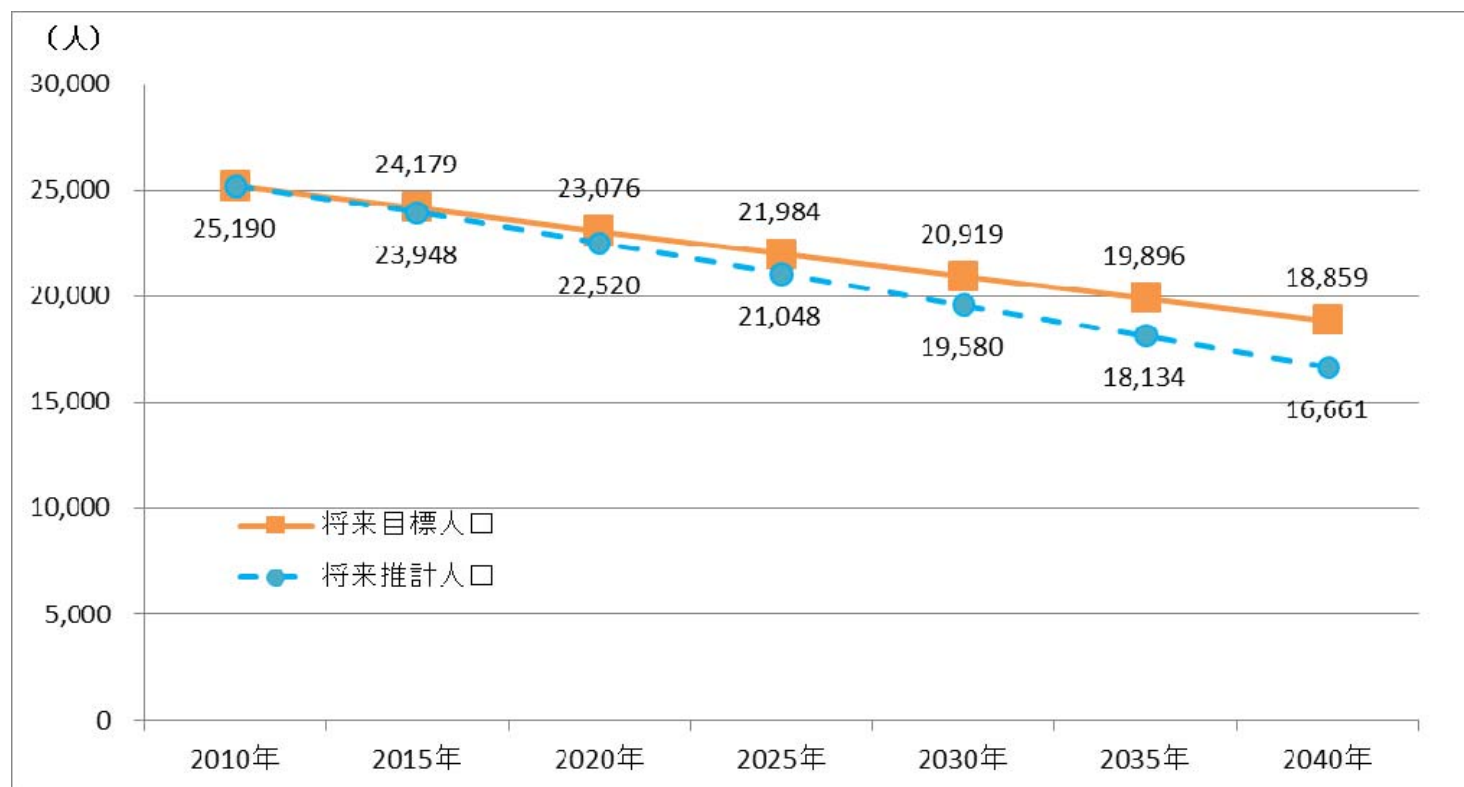
資料:総務省統計局「人口推計」、「国勢調査」および「美里町総合計画」より作成

▲美里町の年齢別人口推移

(1) 町の人口動向

◆ 将来推計人口・将来目標人口

- ・ 将来推計人口も低下傾向と予測されている(2030年には、2万人を割り込む。)。



資料:「美里町総合計画(第2次)」検討資料より作成

▲美里町の将来推計人口・将来目標人口

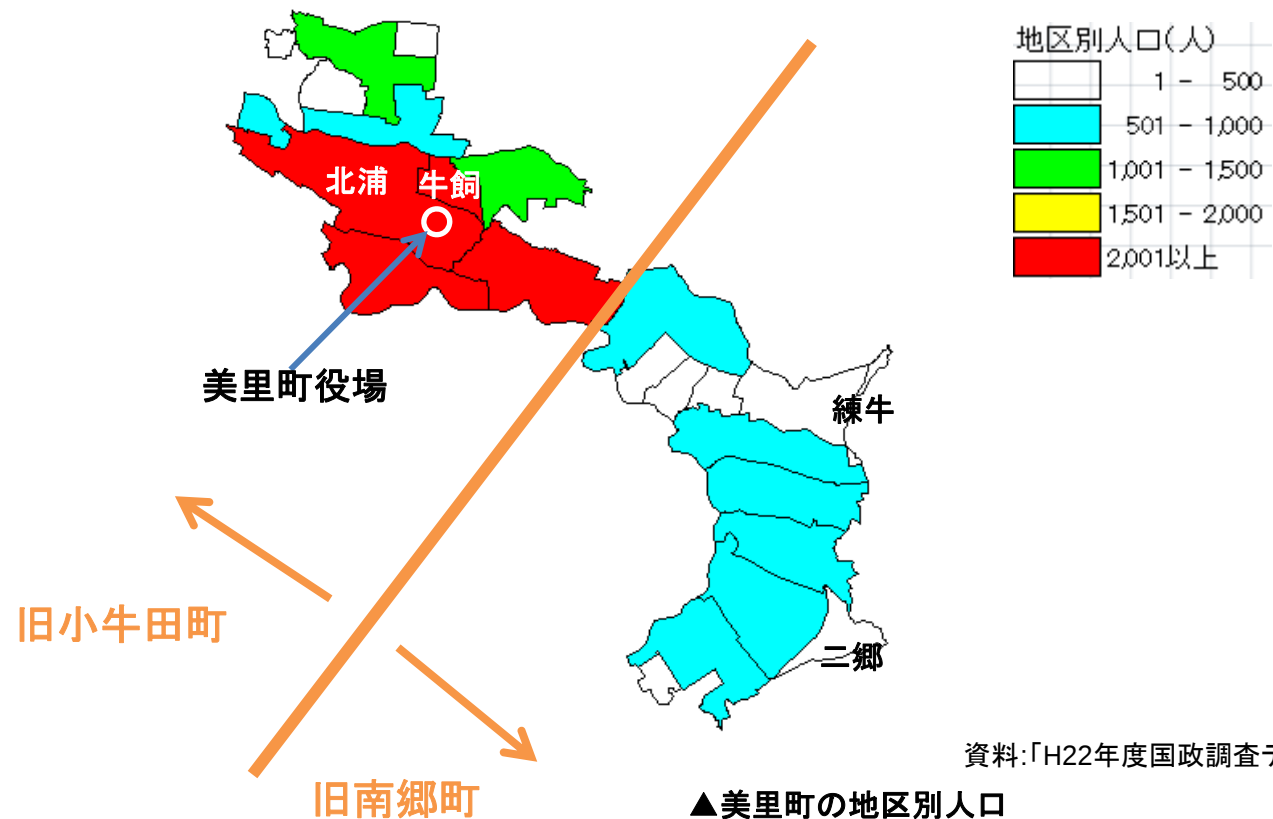
1. 美里町の現状把握及び課題整理

4/29

(1) 町の人口動向

◆ 地区別人口

- 地区別の人口をみると、町内では、小牛田地域の108号及びJR陸羽東線の沿線地域の人口が多くなっている。
- 一方で南郷地域の一部地区において、特に人口が少なくなっている。



1. 美里町の現状把握及び課題整理

5/29

(2) 町の交通動向

◆ 主要道路における交通量

- 国道108号は、大崎市古川と石巻市をつなぐ東西の主要な交通網であり、交通量が約9,000～17,000台/12hと最も多くなっている。
- 国道346号は仙台市と気仙沼市をつなぐ南北の主要な交通網であり約8,000台/12hとなっている。

◆ 近隣ICからの所要時間

- 最寄りのICからは自動車で約25～30分程度であり、各方面から広域的に人を集めやすい。



▲美里町内の主要道路における交通量



▲美里町内への近隣ICからの所要時間

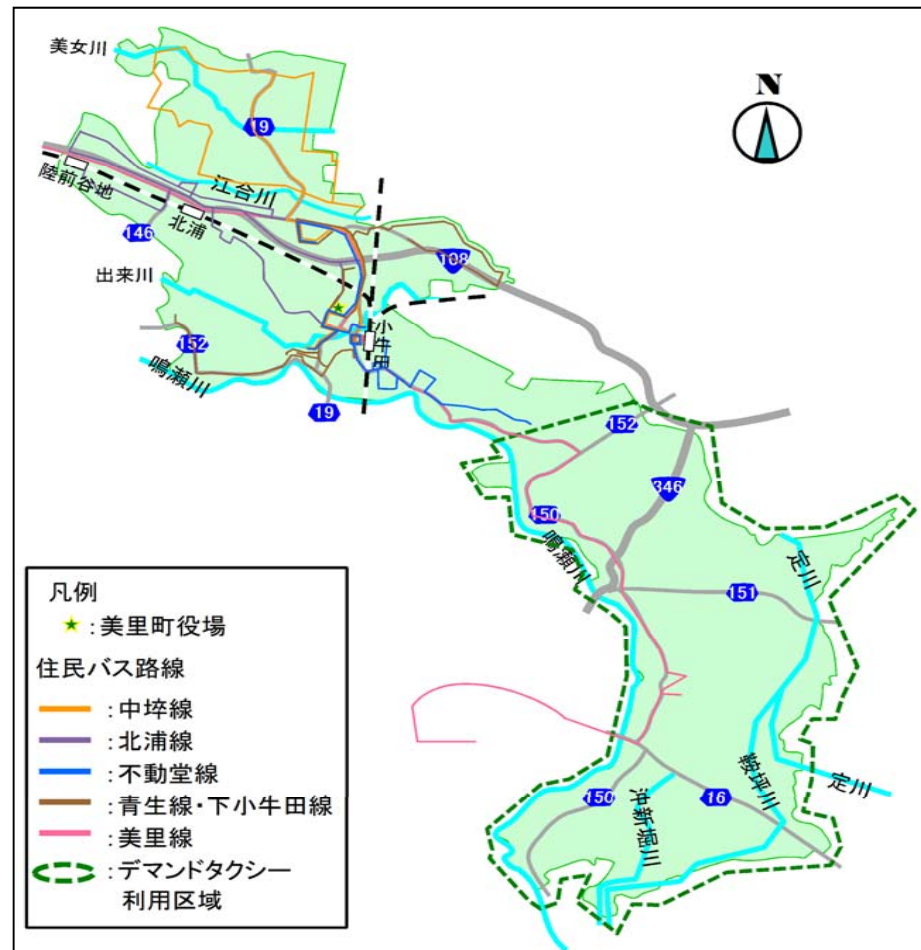
(2) 町の交通動向

◆ 鉄道

- 美里町は東北本線、陸羽東線及び、石巻線の3本の路線があることから、鉄道の町として栄え、小牛田駅が各路線の結節点として機能している。
- 東北本線及び陸羽東線では、イベント列車「みのり」など、期間限定の蒸気機関車が運行している。

◆ バス路線

- バスネットワークに関しては、小牛田駅周辺が密に整備されている。
- 小牛田地域では、陸羽東線に沿ってバスネットワーク整備されている。



▲美里町内の鉄道網及びバス路線

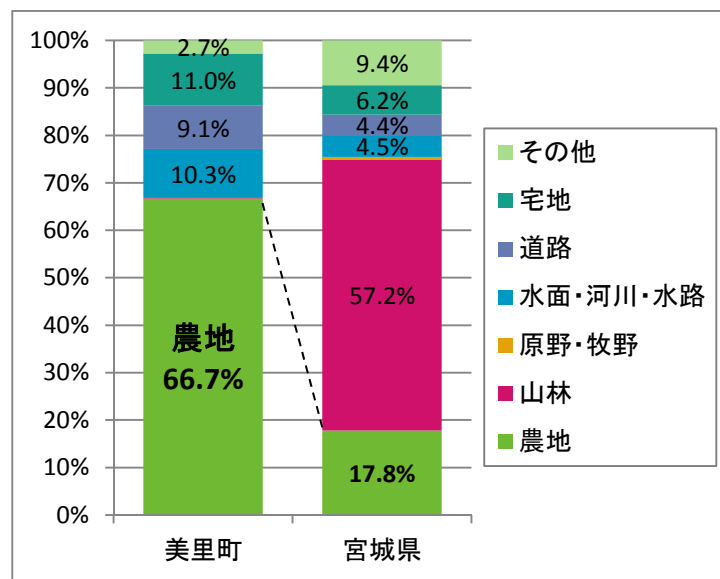
(3) 町の産業動向

◆ 土地利用の状況

- ・ 宮城県(約2割)と比べて、農地の割合が約7割と高くなっている。

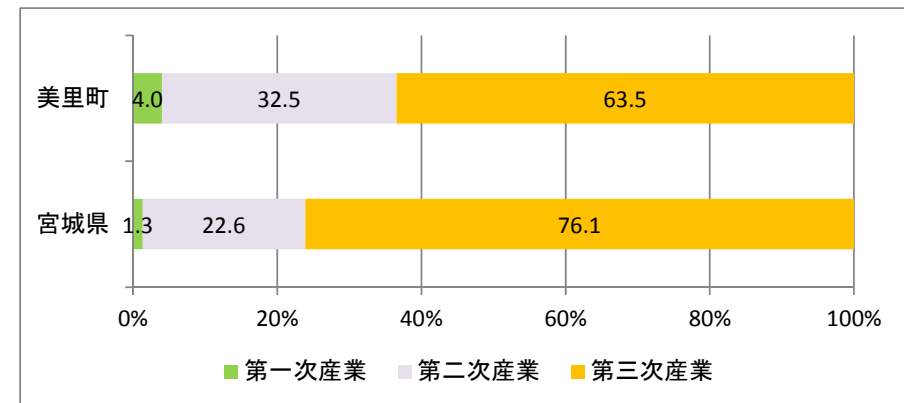
◆ 経済活動別総生産の構成比

- ・ 宮城県と比べて、総生産額に占める一次産業及び二次産業の比率が高くなっている。



資料:「宮城県統計年鑑」より作成

▲美里町の土地利用の状況



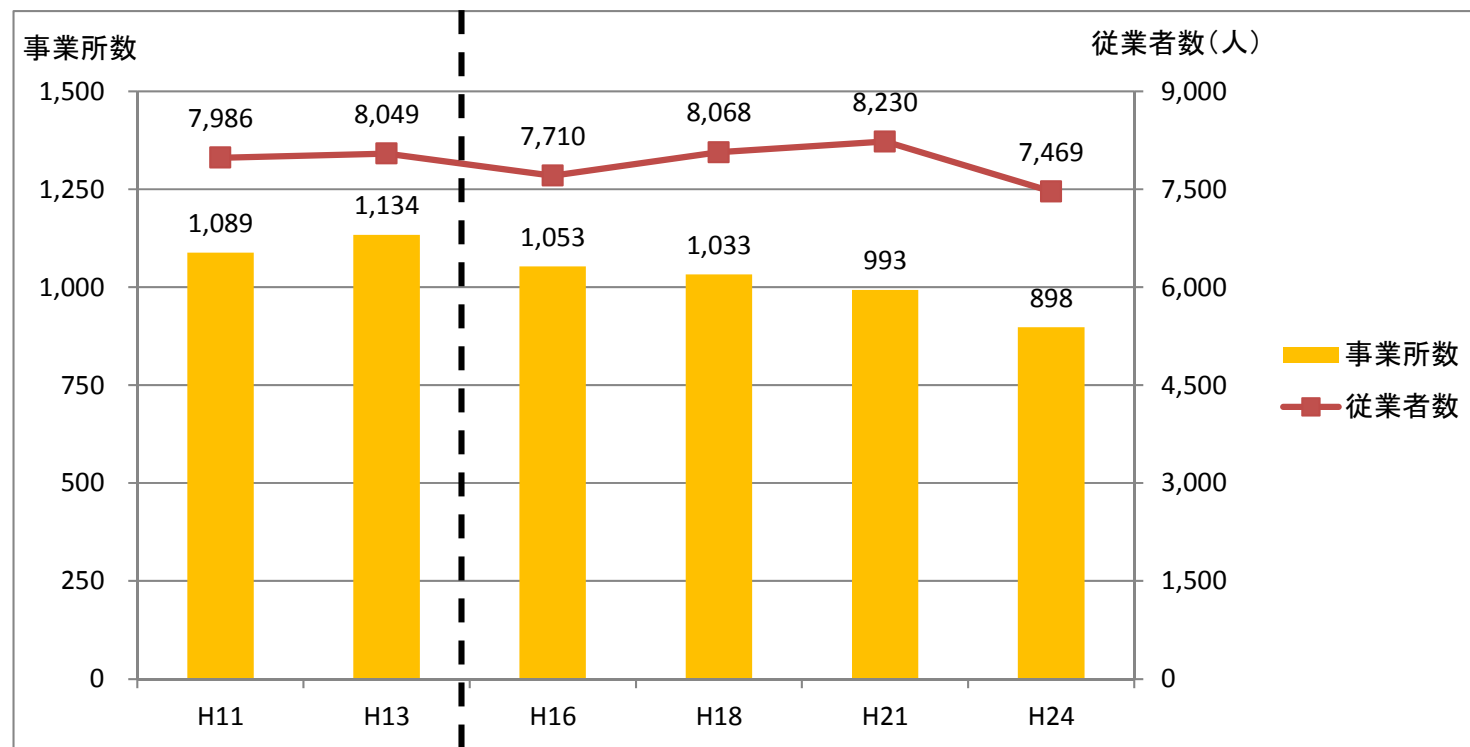
資料:「平成24年度宮城県市町村経済計算」より作成

▲美里町の経済活動別総生産の構成比

(3) 町の産業動向

◆ 美里町民間事業者の事業所数・従業者数

- ・ 事業所数は、平成13年度以降減少傾向である。
- ・ 従業者数はこれまでは約8,000人で推移していたが、平成24年には従業者数の減少が顕著である。



資料:「事業所・企業統計、経済センサス」より作成

▲ 美里町民間事業者の事業所数・従業者数

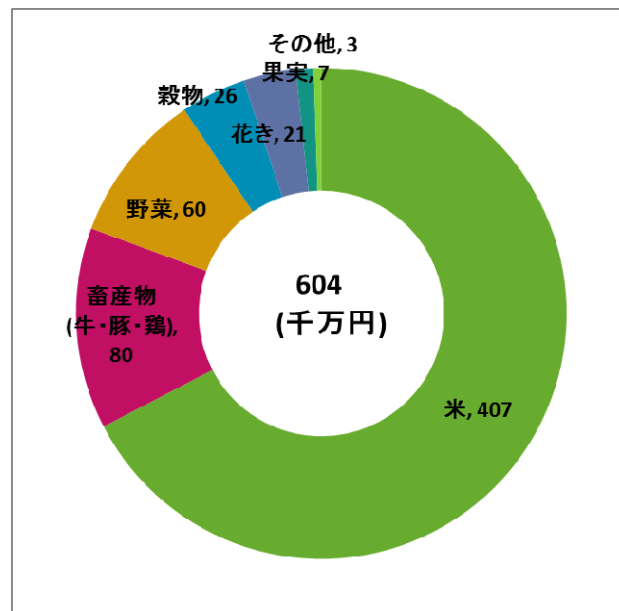
(3) 町の産業動向

◆ 品目別農業産出額

- ・特に多いのが米で約41億円となっており、
- ・次いで、畜産物、野菜、穀物の順となっている。

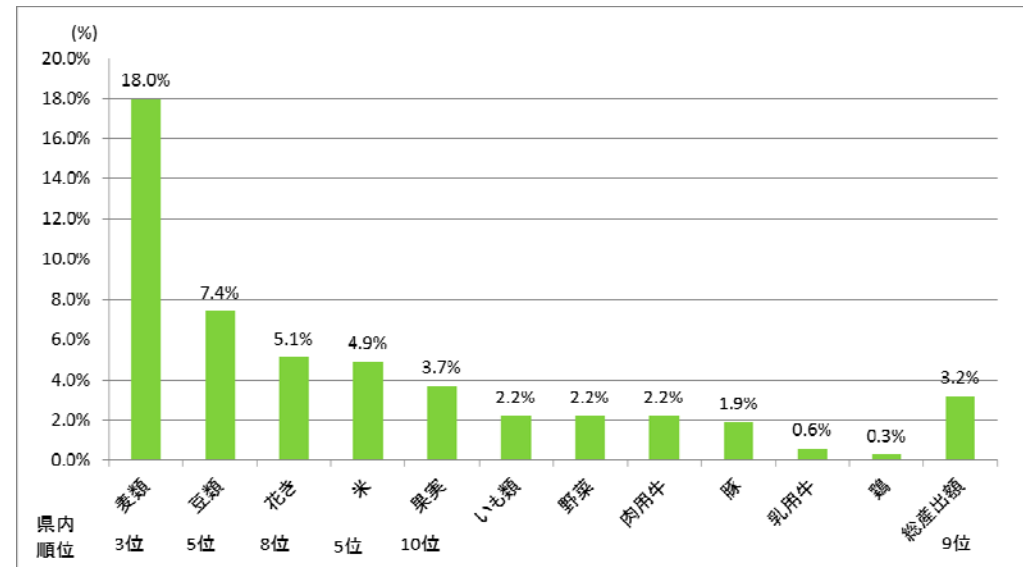
◆ 県内の農業産出額に占めるシェア

- ・県内の農業産出額に占める町の産出額の割合は3%で、県内で9位と上位に位置する。
- ・特に、麦、豆、米、花きのシェア率は高くなっている。



資料:「宮城県統計年鑑」より作成

▲美里町の品目別農業産出額



資料:「宮城県統計年鑑」より作成

▲県内の農業産出額に占める美里町のシェア

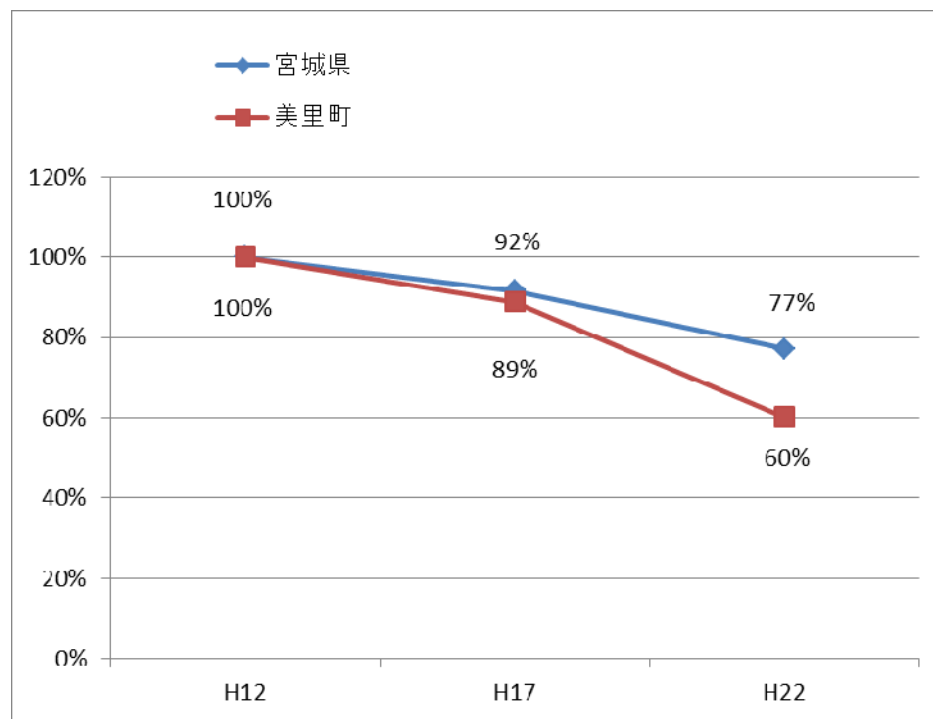
(3) 町の産業動向

◆ 農家数の推移

- ・宮城県と比べて、美里町の農家数の減少が顕著になっている。

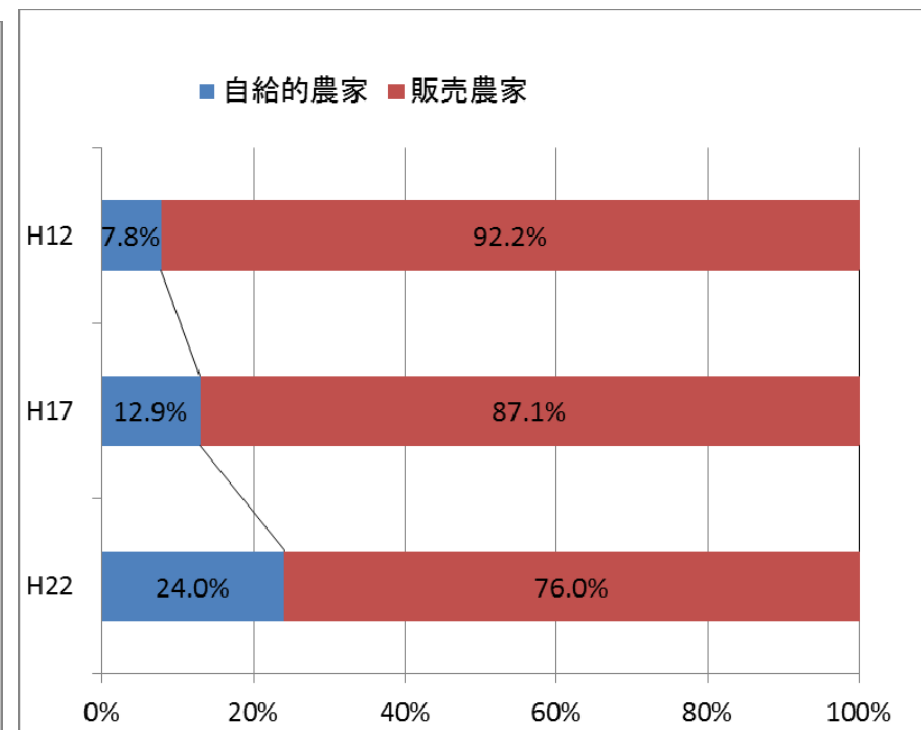
◆ 分野別農家数の比率

- ・販売農家の比率が、減少している。



資料:「農業センサス」より作成

▲農家数の推移



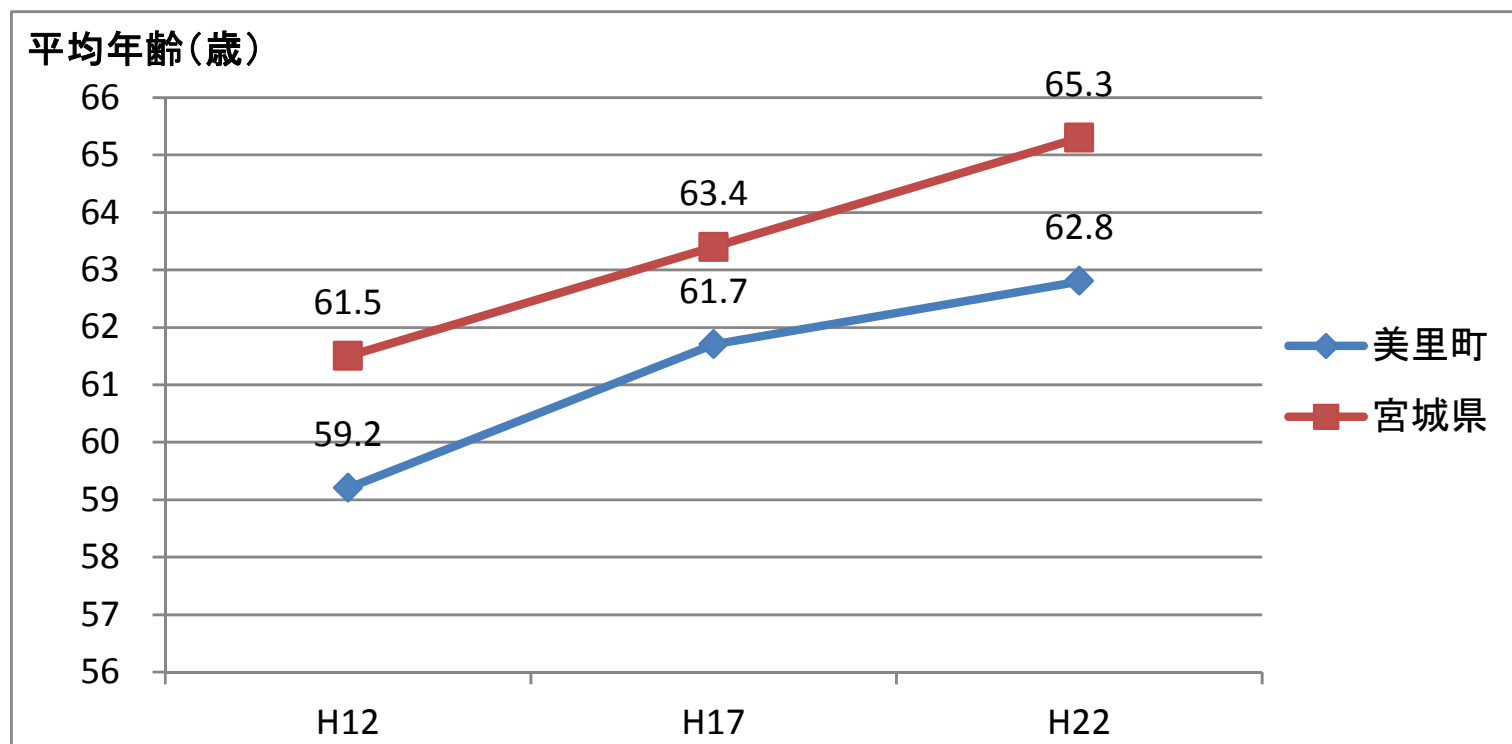
資料:「農業センサス」より作成

▲美里町の分野別農家数の比率

(3) 町の産業動向

◆ 基幹的農業従事者の平均年齢

- ・ 農業従事者の高齢化が、進行している。



資料:「農業センサス」より作成

▲美里町の基幹的農業従事者の平均年齢

(3) 町の産業動向

◆ 主な特産品

- 南郷地域の「バラ」は市場における評価も高く、東北花の展覧会花き品評会をはじめ、様々な品評会で各種の賞に輝いている。
- 「北浦梨」は、美里町の古くからの名産である。
- 「山の神まんじゅう」は、安産の神様として知られている霊験あらたかな「山神社（やまのかみしゃ）」に因む銘菓で、古くから参詣の人々に好評を博している。



▲バラ



▲手作りハム・ソーセージ



▲北浦梨



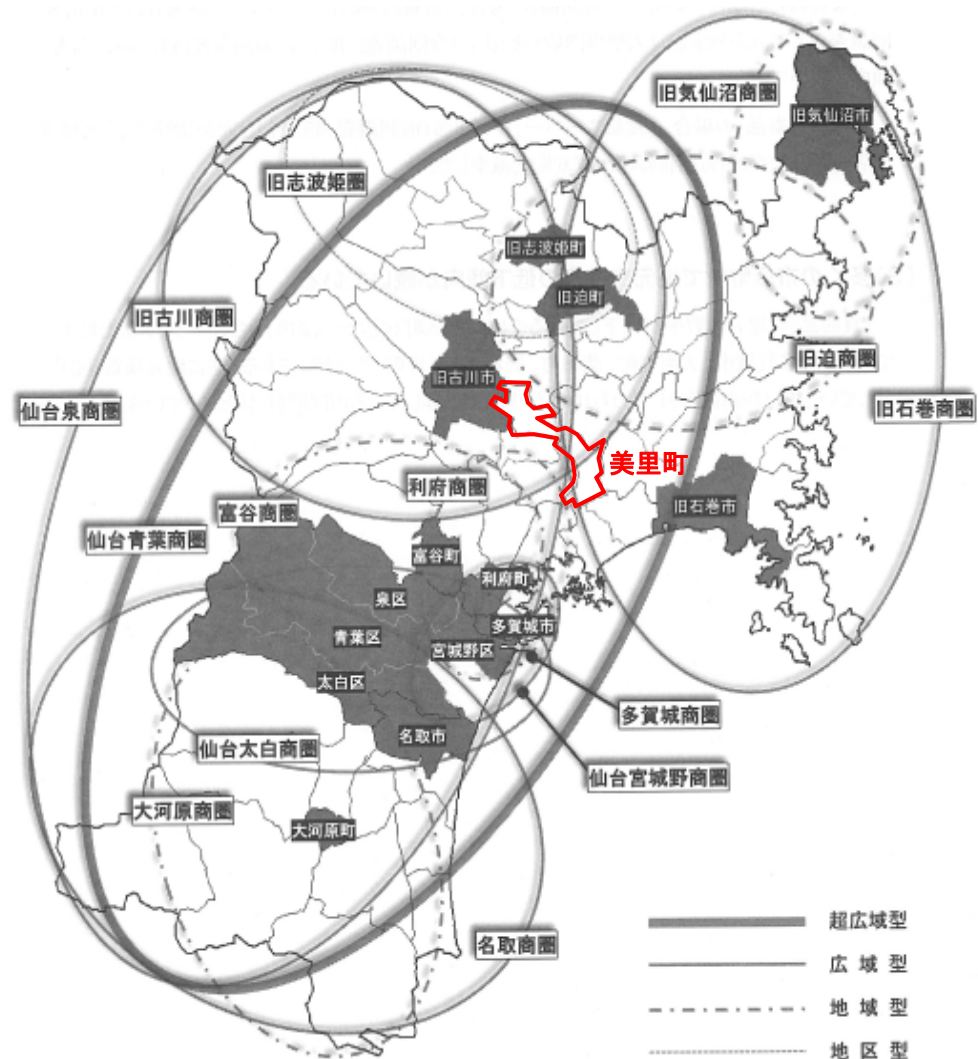
▲山の神まんじゅう

資料:「美里町役場ホームページ」より作成

(3) 町の産業動向

◆ 宮城県の商圈分布

- 美里町は
「仙台青葉商圈（超広域型）」
「仙台泉商圈（広域型）」、
「旧古川商圈（広域型）」、
「旧石巻商圈（広域型）」に
含まれており、近隣市町村では、
大崎市古川や石巻市（旧石巻市
域）との関わりが深い。



資料:「宮城県の商圈(平成25年3月)」より

▲宮城県の商圈分布

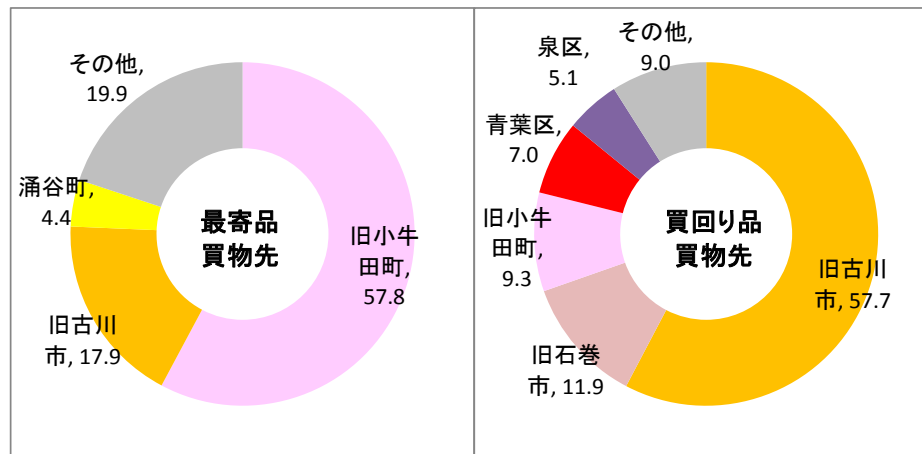
(3) 町の産業動向

◆ 小牛田地域居住者の主な買い物先

- ・ 小牛田地域では、最寄品で約6割が町内においてまかなわれているが、買回り品は約9割が大崎市古川など、周辺商業地に依存している。

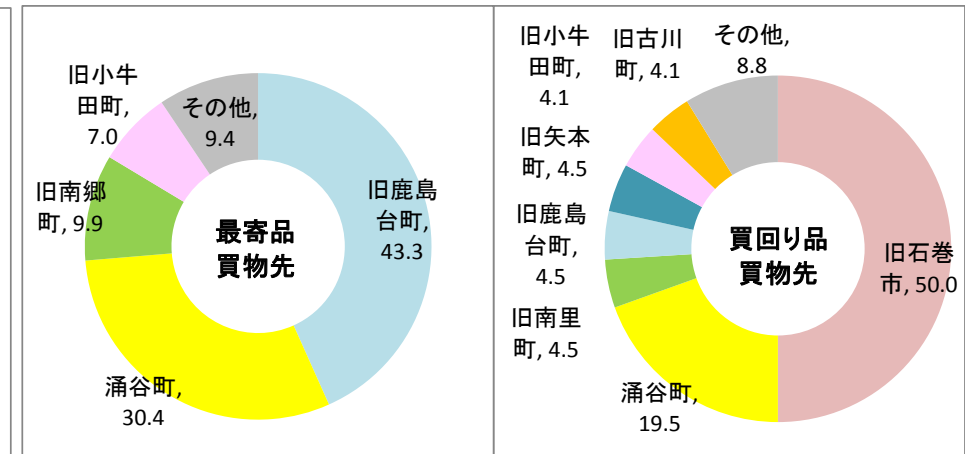
◆ 南郷地域居住者の主な買い物先

- ・ 南郷地域においては、最寄品、買回り品ともに近隣市町に依存している。
- ・ 最寄品においては、大崎市鹿島台、涌谷町の比率が高くなっており、
- ・ 買回り品においては、石巻市（旧石巻市域）、涌谷町の比率が高くなっている。



資料:「宮城県の商圈(平成25年3月)」より作成

▲旧小牛田町居住者の主な買い物先



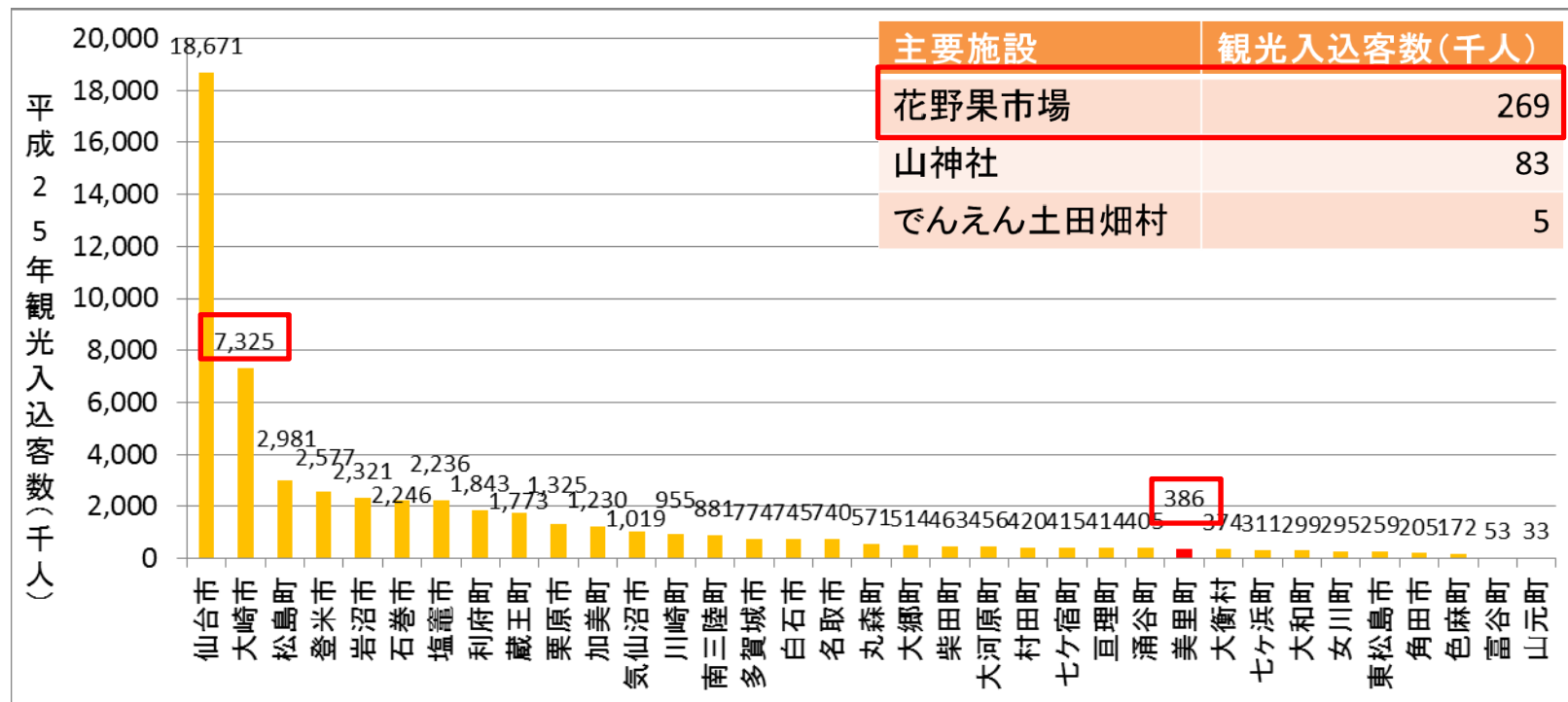
資料:「宮城県の商圈(平成25年3月)」より作成

▲旧南郷町居住者の主な買い物先

(3) 町の産業動向

◆ 平成25年観光入込客数ランキング

- ・ 美里町の観光入込客数が年間約390千人、県内では26位となっており大崎市と比べると1/20と少なくなっている。
- ・ 美里町では、直売所(花野果市場)の観光客が最も多いことがわかる。



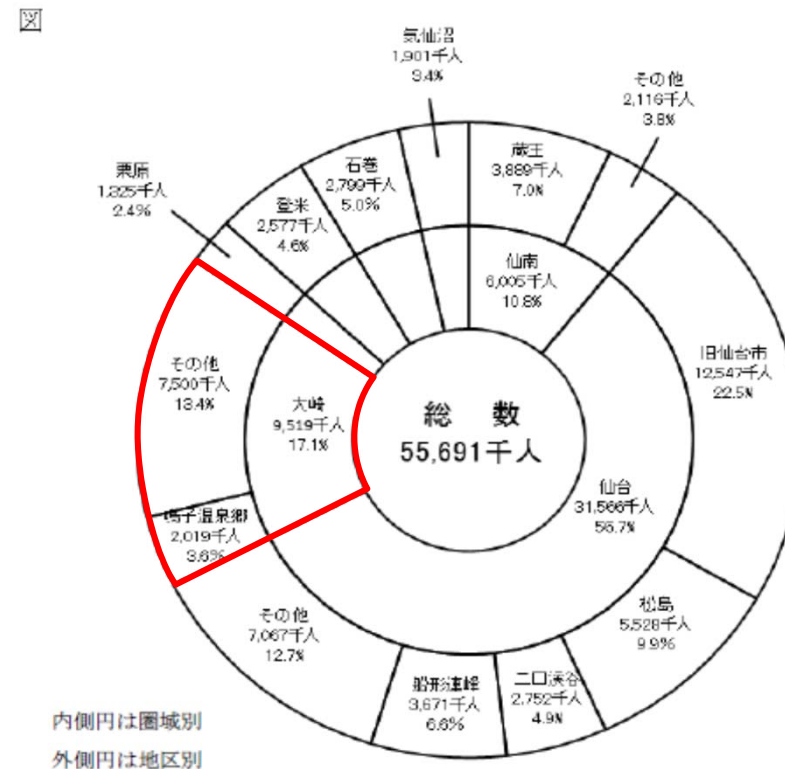
資料:「観光統計概要(平成25年)」より作成

▲ 平成25年観光入込客数ランキング

(3) 町の産業動向

◆ 圏域別入込数

- 美里町が所在する「大崎圏域」は、「仙台圏域」に次ぐ県下第2位の観光圏域を形成しており、約950万人の入込数がある。



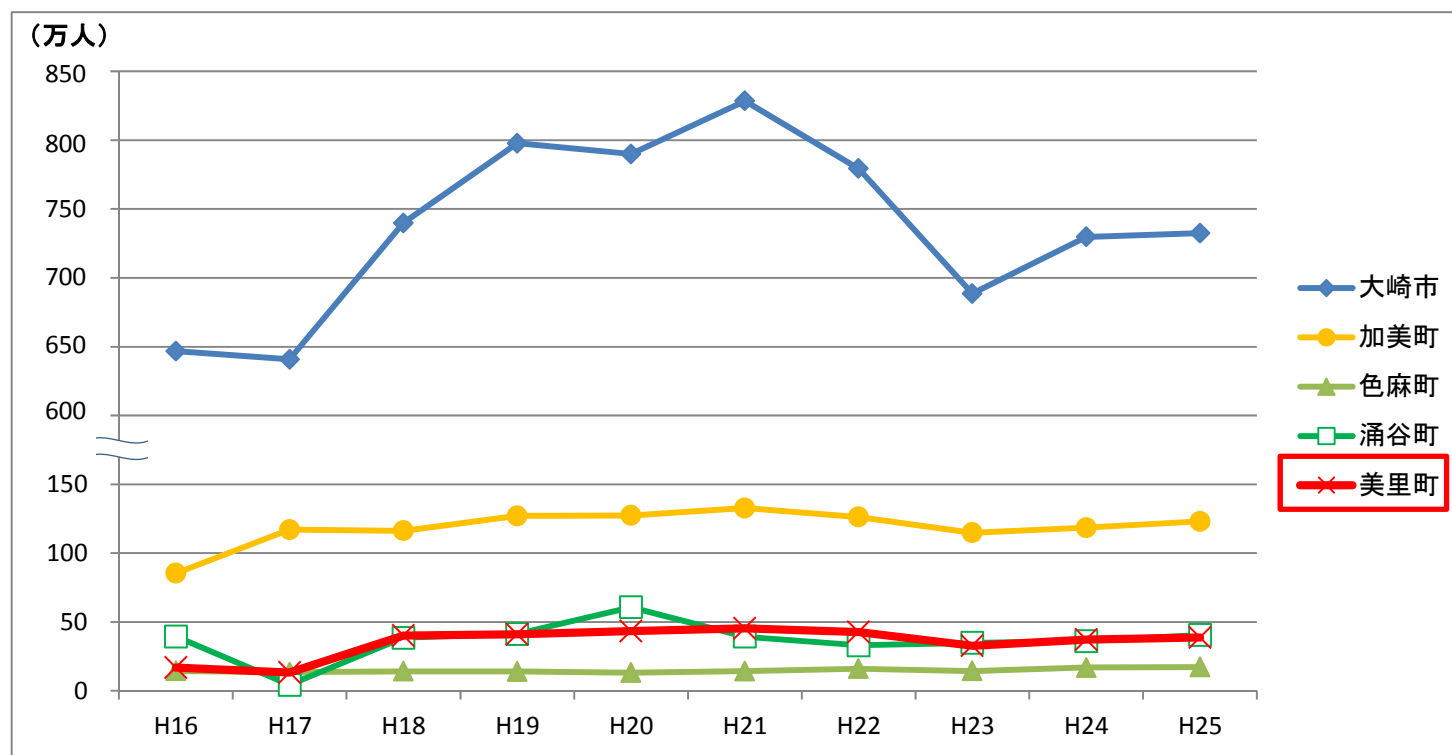
資料:「観光統計概要(平成25年)」より

▲ 圏域別入込数

(3) 町の産業動向

◆ 大崎圏域市町別入込数の推移

- ・「鳴子温泉」などを含む大崎市の入込数が特に多く、次いで「薬菜山」を含む加美町が多い。
- ・美里町のほか、拠点的な観光地のない町は、大崎市や加美町に比べて、入込数に大きな差がある。



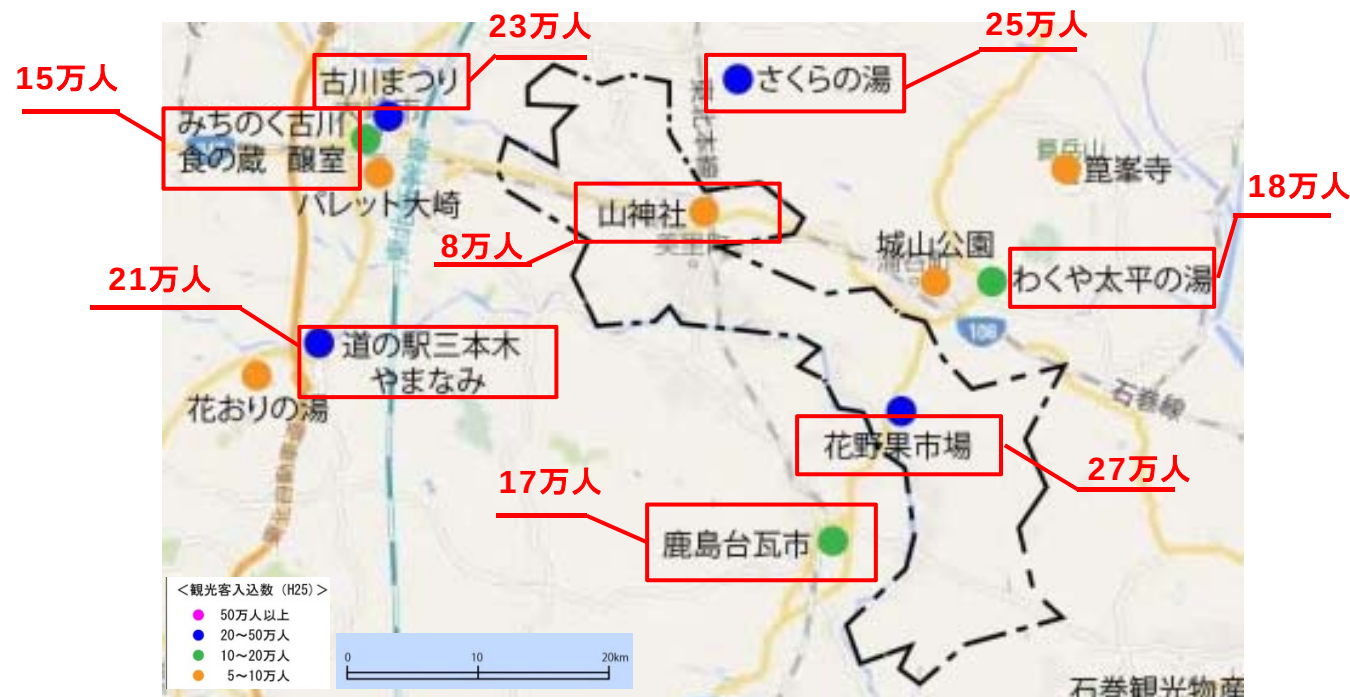
資料:「観光統計概要(平成25年)」より作成

▲大崎圏域市町別入込数の推移

(3) 町の産業動向

◆ 美里町周辺の主要観光資源

- 南郷地域周辺では、花野果市場を超える観光入込客数の施設がない。
- 周辺主要観光資源の観光入込客数は、「さくらの湯」や「道の駅三本木」などが20万人を超えており、その他は、5～20万人程度となっている。
- 小牛田地域の周辺には「さくらの湯」や「古川まつり」など集客力のある施設・イベントがあるため、集客のポテンシャルを持つエリアと言える。



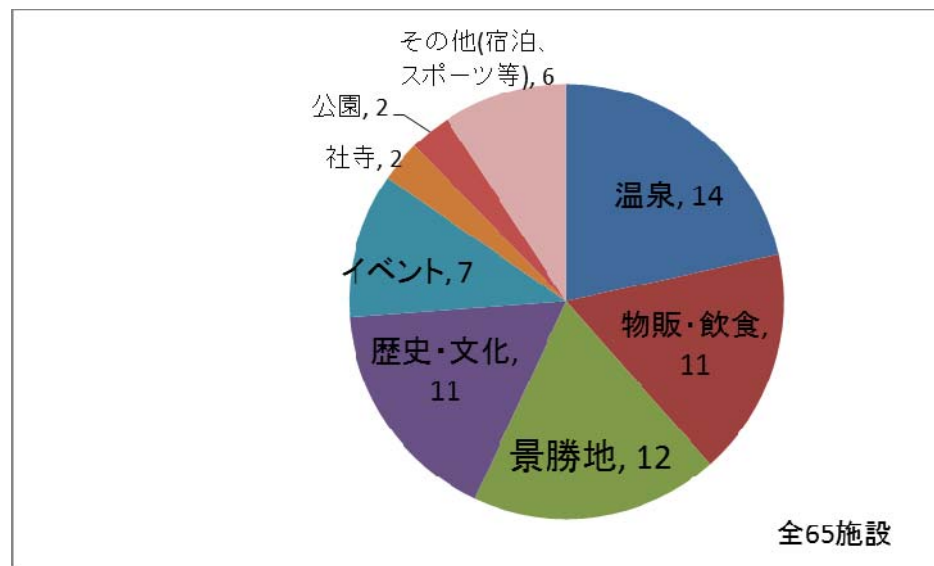
資料:「観光統計概要(平成25年)」より作成

▲美里町周辺の主要観光資源(入込数5万人以上)

(3) 町の産業動向

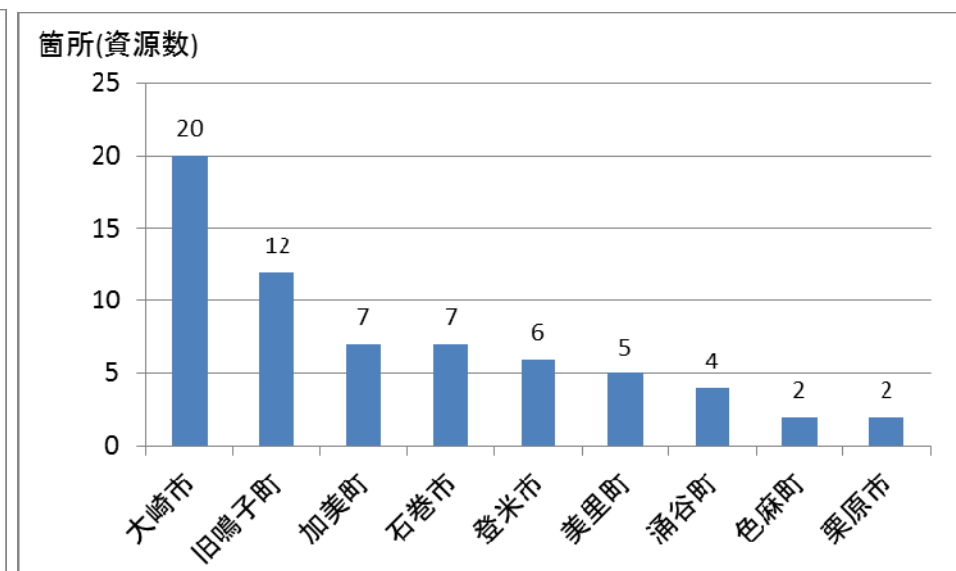
◆ 大崎圏域及び美里町隣接市町村の主要観光資源

- ・ 大崎周辺では、温泉施設が14施設と最も多く、次いで、景勝地、物販・飲食、歴史文化が多くなっている。
- ・ 地域別でみると、大崎市が20件と多いことがわかる。



資料:「観光統計概要(平成25年)」より作成

▲大崎圏域及び美里町隣接市町村の主要観光資源(区分別)



資料:「観光統計概要(平成25年)」より作成

▲大崎圏域及び美里町隣接市町村の主要観光資源(地域別)

2. 拠点施設に関する現状

20/29

(1) 国土のグランドデザイン2050

◆ 拠点施設の位置づけ

- 地方圏域においては、「小さな拠点」を中心としたまちづくり施策が打ち出されている。
- 小さな拠点は、小学校区など複数の集落が集まる基礎的な生活圏の中で分散している様々な生活サービスや地域活動の場などをつなぎ人やモノ、サービスの循環を図ることで、生活を支える新しい地域運営の仕組みをつくる取り組みとなっている。



資料:国土交通省ホームページより

▲国土のグランドデザイン2050

(2) 「道の駅」とは

- 休憩機能
 - 道路利用者の休憩のための駐車場やトイレを提供
- 情報発信機能
 - 道路交通情報や地域観光情報等の情報を提供
- 地域連携機能
 - 文化教養施設、観光レクリエーション施設など連携のための空間を提供

「道の駅」の目的

- 道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- 地域の振興に寄与

「道の駅」の機能

休憩機能

- 24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ

情報発信機能

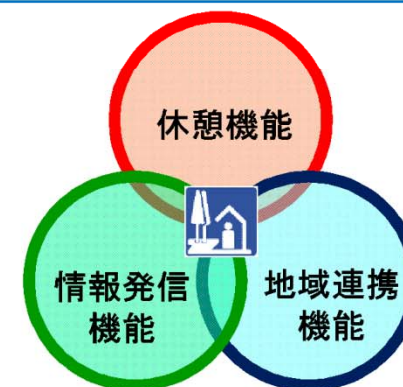
- 道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供

地域連携機能

- 文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

「道の駅」の基本コンセプト

地域とともにつくる
個性豊かな
にぎわいの場



(3) 「道の駅」による地方創生拠点の形成

- もともと、ドライバーの休憩施設として生まれた「道の駅」は、「まち」の特産物や観光資源を活かして「ひと」を呼び、地域に「しごと」を生み出す核へと独自に進化した（全国で1059駅が登録）
- 「道の駅」を地方創生の拠点とする先駆的な取組をモデル箇所として選定し、関係機関が連携して総合的に支援する取組が始まっている。



資料:国土交通省ホームページより

▲「道の駅」による地方創生拠点の形成

2. 拠点施設に関する現状

23/29

(3) 「道の駅」による地方創生拠点の形成:もてぎ

- ・真岡鉄道のSLやサーキットなど地域の魅力へのアクセスポイントとしてのゲートウェイ機能を活かして集客をしている。
- ・オリジナル商品を33種類も開発するなど、ブランド化の促進を進めている。
- ・上記の集客拠点にとどまらず、防災館を併設するなど防災拠点としての位置づけもある。



○「道の駅」を核とした6次産業化

「道の駅」が農家から柚子等を全量買取、手作業で加工、オリジナル商品（33種類）を開発、販売

○地域のにぎわいの拠点

創意工夫の取り組みで利用客数、販売額は10年間で1.3倍に増加

○地域の防災拠点

防災力向上のための防災館を併設。平時からの防災啓発に活用

○ふるさと納税の推進

道の駅の商品をふるさと納税のお礼として地域PRに活用

資料:国土交通省ホームページより

▲ゲートウェイ型の例:道の駅「もてぎ」

2. 拠点施設に関する現状

24/29

(3) 「道の駅」による地方創生拠点の形成:とみうら

- ・観光資源（びわ等）をパッケージ化し、都市部の旅行代理店へ販売するなど、地域の魅力発信を促進している。
- ・特産品の加工を道の駅を中心として行っており、オリジナル商品の開発・販売を一手に行って6次産業化を進めている。



○「道の駅」を核とした6次産業化

「道の駅」が中心となり特産のびわを加工、オリジナル商品（50種類）を開発、販売

○地域固有の観光資源をパッケージ化し、観光ニーズを呼び込み

観光資源をパッケージ化し、都市部の旅行会社へ販売（道の駅が旅行業資格を取得）

○地域の伝統・文化の継承、交流のための取り組み

富浦人形劇など、地域の伝統・文化の継承の場としても活用

資料:国土交通省ホームページより

▲産業活性化先進事例:道の駅「とみうら」

(3) 「道の駅」による地方創生拠点の形成:うちこ

- 地元農家が中心となって商品開発を行い、町内の農産物販売額の15%を占める拠点となっている。
- ITを用いて鮮度管理や在庫管理を行っており、安全で効率的な農作物の販売に力を入れている。



○季節の農作物にあわせて加工商品を開発販売

内子町内の農産物販売額の約15%を売り上げる拠点に発展

○ITを導入して鮮度を追求することで、安全安心な農産物提供システムを構築

出荷する地場農産物にトレーサビリティやPOSシステムを導入

販売情報が連絡され、在庫に合わせて出荷者が直接納品することで鮮度向上を追求

資料:国土交通省ホームページより

▲産業活性化先進事例:道の駅「内子フレッシュパークからり」

(4) 美里町及びその周辺における拠点施設の現状

1) 農産物直売所

南郷地域：「花野果市場」

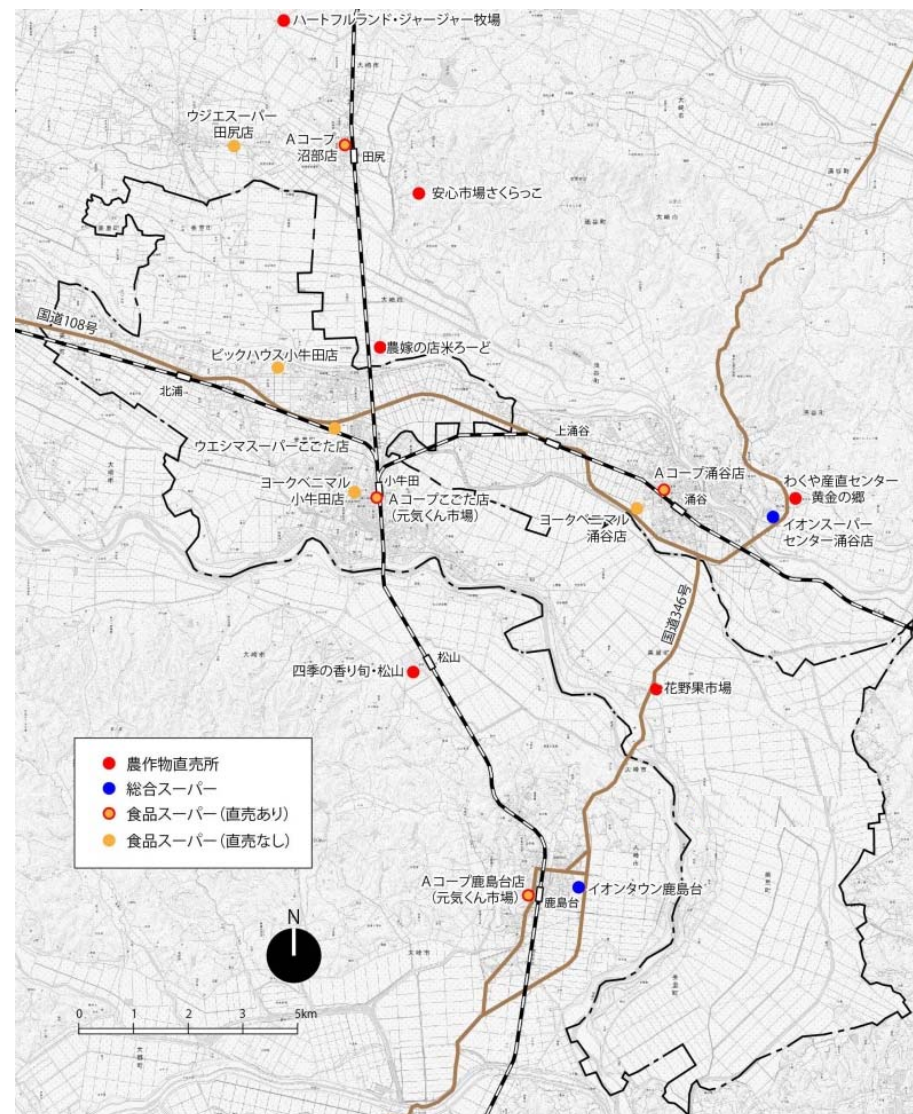
- 各種特産品や加工品など扱う。
- 農家レストラン「はなやか亭」が併設
- 同施設は大崎圏域で第3位の入込数

小牛田地域：「元気くん市場」

- みどりのサービスがAコープこごた店内に設置
- 元気くん市場は、富谷町内にも直営店を営業

2) その他関連施設

- 3か所の食品スーパーマーケットがあり、町民の日常的な買い物の場となっている



▲農産物直売所及びスーパーマーケットの立地状況

2. 拠点施設に関する現状

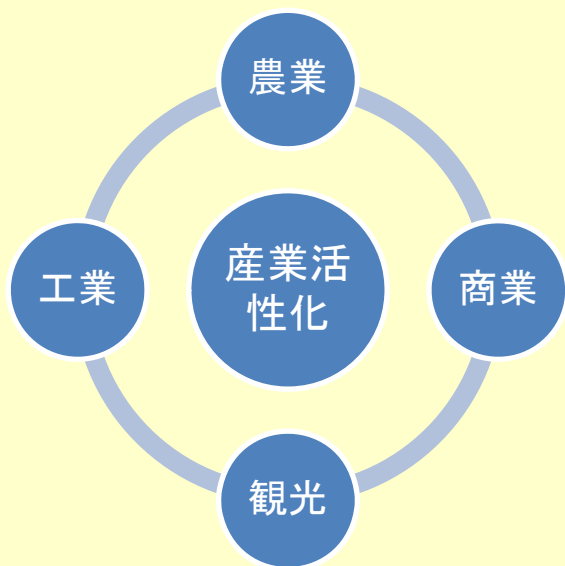
27/29

(5) 美里の拠点施設について

- ・美里町産業活性化戦略会議において、「生産・販売分野、人材の養成と育成、核となる施設」の整備へ

- ・美里町産業活性化施策討議要綱において、
ASAHIリノベーション・プロジェクト
(仮称) 道の駅「ASAHI - こごた駅」

産業活性化拠点施設整備プロジェクト



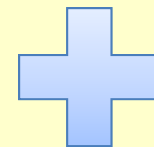
- ・ヒト、モノの流れ、生産・流通・販売の流れを変える新たなプラットフォームを形成
- ・一次、二次、三次といった産業枠を超えた点から面での産業活性化
- ・域外取引を活性化させ、域内循環を向上
- ・地域経済の持続的な発展と好循環を実現

人材育成
プロジェクト

産地形成・
創業チャレンジ
プロジェクト

付加価値向上
プロジェクト

産業
活性化



その他の
課題解決

1)「美里ブランド」の不足

- ・全国的に高い知名度を持った、特化したブランド品を開発するには至っておらず、加工施設等を核とした企画開発機能を強化する必要がある。

2)地産地消機会の不足

- ・本町の人口が集積する小牛田地域においては、専用施設としての農産物直売所は無く、地元生産者の販売機会及び居住者が地元農産物を購入する機会が限定されている。

3)農業の停滞・後継者問題の進展

- ・担い手となる農家や農業従業者数が急速に減少しつつあり、基幹産業としての農業の継承が懸念される。

4)交流人口の停滞

- ・市町別の入込客数は低迷し、潜在的な観光需要を十分に生かしきれていない。
- ・新たな観光振興策の取組を検討していく必要がある。

5)情報発信の不足

- ・美里町には「バラ」「北浦梨」など特産品があり、「花野果市場」といった多くの人を誘客している施設があるものの、そのプロモーション（ニーズに合致した人々への情報発信）が十分とは言えない。

美里町の現状と課題

- 人口減少、少子高齢化
- 宮城の食糧基地(米、野菜等)⇔ブランド不足
- 地産地消の場としては「花野果市場」の1か所

- 特産品(バラ、梨等)のプロモーション不足
- 農業従事者の高齢化、担い手の不足
- 観光入込客数:年間39万人(H25)と少ない

上位・関連計画

- 美里町総合計画(第二次)※H27.7時点
将来像:産業が発展し、人が集い、賑わいのある生き生きとした暮らしができるまち
基本理念:安定した行財政運営
基本方針:
 - ①生涯を通して学び楽しむまちづくり
 - ②健やかで安心なまちづくり
 - ③力強い産業がいきづくまちづくり
 - ④暮らしやすさを実感できるまちづくり
 - ⑤自立を目指すまちづくり

○美里町
まち・ひと・しごと
創生総合戦略
(平成27年度策定予定)

拠点施設の位置づけ

- 産業活性化戦略会議
・生産・販売分野、人材の養成と育成、
核となる施設の必要性

- 産業活性化施策討議要綱
(平成27年度策定予定)
 - ・新たなプラットフォームを形成
 - ・点から面での産業活性化
 - ・地域経済の持続的な発展と好循環を実現

計画コンセプト(素案)

整備目的: ヒト、モノの流れ、生産・流通・販売の流れを変える新たなプラットフォームの形成

あるべき姿: いつでも、笑顔で、活力にあふれ、
働く幸福を感じられる、産業(しごと)の創造
「Always」「Smile」「Active」「Happiness」「Industry」

整備・運営の基本的な考え: 機能の段階的拡充と農業を軸とした持続的な魅力創出と発信